

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成31年1月11日

協議会名: 氷見市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
加越能バス株式会社	運行系統名: ひみ番屋街経由氷見市民病院 運行区間: JR氷見駅～ひみ番屋街～氷見市民病院	1 市広報誌やホームページ、各種パンフレット等にバスの情報を掲載し、周知を図った。 2 利用しやすいバスとなるよう努めるため、また現状分析と今後の計画策定に役立てるため、乗降調査を実施した。 3 乗降調査や利用実態調査を元に、通勤・通学利用を積極的に取り込むため、JR氷見線や地域間幹線系統との接続性を向上させる運行時刻表とした。	A 計画に基づいたバス運行を実施し、地域に対し輸送サービスを提供できた。	1 目標 1便当たりの利用者数目標値は、平日は4.1人、土日祝は10.1人。運行系統別では、①ひみ番屋街経由氷見市民病院は1,700人、②ひみ番屋街は7,600人、③市街地循環左回りは6,900人、④市街地循環右回りは5,400人とした。	1 地域住民・来訪者双方のバス利用を促すため、市広報誌やホームページ、各種パンフレット等においてバスの情報を掲載して周知と利用促進を徹底する。 2 乗降調査を継続し、利用実態の把握に努める。 3 通勤・通学・生活利用を積極的に取り込むため、沿線施設の始終業時刻等を踏まえて適宜運行時刻表の改正を行い、JR氷見線や地域間幹線系統等との乗継利便性を確保・維持する。 4 城端線・氷見線沿線地域公共交通網形成計画などの上位・関連計画と整合性を確保し、効率的な輸送サービスの提供を行う。
	運行系統名: ひみ番屋街 運行区間: JR氷見駅～ひみ番屋街		A 計画に基づいたバス運行を実施し、地域に対し輸送サービスを提供できた。	2 効果達成状況 1便当たりの利用者数実績値は、平日は3.7人、土日祝は7.3人。運行系統別では、①ひみ番屋街経由氷見市民病院は1,322人、②ひみ番屋街は6,656人、③市街地循環左回りは4,866人、④市街地循環右回りは4,922人となった。氷見市への観光入込客数が減少したことや人口減少に伴い、バスの利用者数も減少したものと考えられる。また、冬期における荒天により外出が控えられたことも一因と思われる。	
	運行系統名: 市街地循環左回り 運行区間: 氷見市民病院～JR氷見駅～氷見市民病院		A 計画に基づいたバス運行を実施し、地域に対し輸送サービスを提供できた。	C 1便当たりの利用者数が目標に到達しなかったが、高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段の確保につながっているほか、既存路線から離れた地域の交通手段確保や、JR氷見駅と各地との間の移動手段の確保につながった。	
	運行系統名: 市街地循環右回り 運行区間: 氷見市民病院～JR氷見駅～氷見市民病院		A 計画に基づいたバス運行を実施し、地域に対し輸送サービスを提供できた。	1便当たりの利用者数が目標に到達しなかったが、高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段の確保につながっているほか、既存路線から離れた地域の交通手段確保や、JR氷見駅と各地との間の移動手段の確保につながった。	

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成31年1月11日

協議会名:	氷見市地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>氷見市の人口は47,992人(平成27年国勢調査。以下同じ。)であり、減少傾向にある。老年人口比率は35.9%(老年人口17,268人)と高齢化が進展しており、中山間地域はもとより、市街地周辺においても高齢者世帯が増加するなど、その生活支援として交通手段の確保・維持が重要な課題となっている。</p> <p>市内の公共交通網は、JR氷見駅を中心とする放射線状の路線となっており、中心市街地にある主要な公共施設及び商業施設を周遊する路線がなく、自力での移動が困難な高齢者及び障害者等の移動を十分にサポートできていない状況にある。</p> <p>そのため、中心市街地に点在している日常生活に必要な公共施設及び商業施設等を周遊する「氷見市街地周遊バス(4系統)」を運行し、市街地周辺の地域住民の交通手段を確保・維持するとともに、JR氷見線や地域間幹線系統バスをはじめとした既存の路線バスと接続することで、市内の公共交通の利便性の向上を図る。</p>